（別紙様式４－１）　　（県立高等学校・中学校用）

玉名高等学校附属中学校　令和２年度（２０２０年度）学校評価表

１ 学校教育目標

（１）教育方針

ア　「令和２年度（２０２０年度）県立中学校・高等学校における教育指導の重点」、「義務教育課取組の方向」及び「学校安全・安心推進課取組の重点」を踏まえ、本校の三校訓「至誠・剛健・進取」の具現化に努め、徳・体・知の調和がとれた全人教育をめざす。

イ　これまで積み上げてきた本校の教育方針に基づき教職員が一体となって、家庭や地域との連携のもと、活力ある学校づくりをめざす。

（２）教育目標

ア　自ら学び考える創造性と情熱豊かな生徒の育成

イ　他の人も自分も大切にする生徒の育成

ウ　故郷や日本、世界に貢献しようとする生徒の育成

２ 本年度の重点目標

（１）教育目標の実現に向けて

スローガン：夢実現・未来への挑戦　ENTERPRISE

ア　玉名高等学校附属中学校の生徒としての基本的な生活習慣の確立

イ　授業力向上及び個に応じた相談対応、学習指導及び進路指導

ウ　日頃からの職員間コミュニケーションによる学校改革の推進

エ　特別活動（生徒会・部活動等）を生かし、自主性や創造性、奉仕の精神などの育成

オ　地域・保護者との連携

カ　読書活動の推進等、言語環境の整備

３ 自己評価総括表

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	学校の組織力の向上	前年度の反省等を活かした業務の改善	各取組において簡素化を図り効率化を進める。共通理解の徹底と実施の際の協力を図る。	各取組において企画段階から、いわゆる報連相を徹底する。中学校職員会議を適切に行い、共通理解と協力を徹底する。	A	全般に、早めの企画立案に努め、情報の共有を図ることができた。中学校職員会議をとおして、各取組の共通理解を深めた。
		中学校独自の課題の把握と課題に副った職員研修の実践	学期毎に課題の集約を図り、課題に沿った職員研修を定期的に行う。	学期毎に課題を集約する期間を設定する。本校の課題解決に向けて、職員研修等を行う。	B	課題を明らかにし、次年度へ向けて検討を重ねた。 オンライン授業等の研修を急遽行った。
	安全な学校づくりの推進	危機管理意識の確立と実践	日常的な危機管理意識の向上と実践	新聞報道等資料の提供を行い、意識の向上を図る。朝会を簡素化し、各学年の	A	新型コロナウイルスの状況が日々変化し、常に情報の共有を図った。生徒情報

				打合せの時間を確保し生徒情報等の共有を日常的に行う。		の共有等、定期的に適切に行った。
	業務改革・働き方改革	業務の改善による生徒と向き合う時間の確保。	各分掌・係での改善を複数の事項で行う。 行事等の精選により、職員の時間外勤務時間を昨年度より縮減する。	学期毎に業務の振り返りを行い、各分掌で複数の時間外勤務縮減のための改善を行う。 衛生委員会を原則として月１回開催し、情報を共有し校務改善等を検討する。 月に 1 回の定時退庁日を設定する。	A	学期毎の業務の振り返りを行ったが、新型コロナウイルスの影響があり、全体として業務は増大した。 衛生委員会を計画的に開催し、情報の共有を図った。 2 学期から、木曜日を定時退勤日とし、実践した。
	学校の魅力化	学習環境の充実と魅力化	学習に集中できる環境・機会の充実を図る。	個別指導、考査前の学習などのきっかけ作りを行い、学習習慣の充実を図る。	A	各教科で個別指導等に取り組んだ。教育相談を考査前に設定することで、学習習慣の充実を図ることができた。
		特別活動等の魅力化	本校独自の本物に触れる体験・講座等の充実を図る。	1 年生：囲碁教室 2 年生：表現活動 3 年生：演劇などその他の活動に取り組む。	B	1 年：新型コロナウイルスの影響で囲碁教室は実施できなかった。玉名市立歴史博物館を訪問し地域理解に取り組んだ。 2 年：いきいき芸術体験教室文楽鑑賞を行った。 3 年生：年間を通じて計画的に劇団と連携し英語劇に向けて取り組んだ。

		生徒の主体性を尊重する取り組みの充実	生徒自身が学校生活の充実に目を向けることができる。	生徒と意見を交換しながら生徒心得の改善を図る。	A	生徒会役員と協力し、生徒心得の改定を進め、生徒の主体性を尊重した取組とした。部活動主将会議を定期的の開催し、生徒の自主性の向上を図った。
学力向上	授業力の向上	年間指導計画や生徒の実態に応じた適切な授業の実践	年間指導計画を精査しながら、生徒の実態に応じた授業及び高校進学後を見据えた授業に取り組む。	生徒の実態に応じた年間指導計画を策定し、質の高い授業、より深い学びを実践する。	A	各教科で年間計画を策定し、より深い学びの実践を図った。タブレット PC を活用した課題解決学習にも取り組んだ。
		授業公開や授業研究による授業力向上	公開授業を行い、本校の授業を振り返る機会とする。授業評価において、高い肯定感を維持する。	校内外を対象とした公開授業を行い、授業を振り返り、授業の改善を図る。各教科で授業研究を行い、授業の質の向上を図る。	B	公開授業を行ったが、小学生および保護者の参観は多かったものの、小学校の先生の参加は数名であった。今後、授業研究に結びつく公開授業のあり方を検討したい。
		学力向上施策の実施	学力の実態を分析精査し、学力向上対策を行う。	各テストの分析を行い、具体的な対策案を提示し、学力向上対策を講じていく。	A	学力推移調査の結果についてその都度分析し、実態の把握に努め、次の指導に活かした。３年生は、７限目を活用し、学習意欲を高めることができた。
		中高教科会での研鑽による教科指導力の向上	中高教科会における研究協力を通して授業力を向上させる。	中高合同の教科会を実施し、生徒理解を深め、教科指導における研鑽を深める。	B	中高合同の教科会を教科の実情に応じて行った。教科指導面の連携を図った。
	個に応じた学習指導の	宅習時間等の課題把握及び	週１６時間以上の家庭学習が確	各学年と連携し、生徒個々の	A	スコラ手帳の作成･記入を推奨

	工夫改善	対策による家庭学習の充実	保できるように意識を高揚させる。	宅習時間の分析を行い、家庭学習の充実を図る。		し、学習習慣のある基本的な生活習慣の確立に努めた。
		少人数指導や習熟度別指導等の効果的な指導方法の工夫改善	数学、英語等における少人数指導や習熟度別の授業の充実	実態に応じた少人数指導や習熟度別指導を展開し、学力の向上を図る。	A	習熟度に応じて、クラス替えを行いながら少人数クラスを編成し、指導の充実を図った。
中高一貫教育の推進	６年間を通した中高一貫教育指導の充実	中高一貫教育のシステムの充実	６年間を通した取り組み・システムを、各教科や総合的な学習の時間、学校行事等で、充実させる。	中高６年間の各取組の位置づけを見える化し中高で共有する。 高校教師による特別講義等を実施し、学問の面白さを知る機会の充実を図る。	A	高校２年生からの特進クラスの編成が具体的に進み、中学生にとっても大きな励みとなった。 高校の進路指導主事、教務主任から話を聞く機会を設けた。また、高校の各教科の特別授業を行った。
キャリア教育(進路指導)	６年間を見通した進路指導の推進	中高一貫教育校の特色を生かした進路指導の実践	進路意識の高揚を図る取組を充実させる。	外部講師等を招聘し、進路講演会やキャリア教育講演会を実施する。	A	キャリア教育講演会を兼ねて創立１０周年記念講演会を実施し、大変好評であった。
			知的好奇心を掻き立てる本物に触れる体験・講座等を実施する。	１年生：九州大学を訪問し、研究内容等を実際に体感する。 ２年生：熊本大学等で講義を受講する。 ３年生：英語合宿を行う。	B	１年生、２年生は、新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。３年生は、校内で英語合宿を行った。県内の ALT の先生方の協力を得て、充実した取組となった。
	進路意識の高揚	学活や総学、集会等による進路意識の高揚	高校卒業後を見据えた生徒の進路意識の高揚のための啓発を図る。	学活や総学、集会等の指導を通して、日常の学習と進路との関係性を伝え、生徒の進路意識の	A	３年生が学部学科研究を行い１年生向けに発表し、学年間の交流を兼ねて取り組んだ。３年生

				高揚を図る。		は、海外の大学に進学した卒業生から話を聞く機会を設け、刺激を受けることができた。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	様々な教育活動を通した健康的な生活リズムの確立	日常、教科、保健指導等を通して健康的な日常生活リズムを確立させる。	学活や集会、通信等を通して、健康の大切さを理解させ、健康的な生活リズムを確立させる。	A	集会時の全体指導や保健だより等を活用し、生活リズムの確立の大切さを指導した。保健室利用者には日頃の生活リズムの乱れが見られるので、個別指導の充実を図る必要がある。
		交通安全意識の高揚及びマナー指導	登下校における自転車の安全な乗り方や公共交通機関でのマナー等を確立させる。	登校指導を全職員で実施する。また、全校集会や日常指導、学級通信等を通じて交通マナーについて啓発する。	A	１学期当初、中学校独自に登校指導を行った。自転車二重ロック等の点検を行い、交通マナーの意識付けを行った。
	生徒会・部活動等の活性化	生徒会や委員会活動等を通して主体性を育む。	生徒が主体的、計画的に取り組む生徒会活動を確立させる。	生徒会や委員会活動の機会・時間を確保し、内容の充実を図る。	A	活動時間を確保し、生徒がリーダーシップを発揮して、生徒会行事を企画運営することができた。 コロナ禍の中、取組内容を精査し、リモートでの実施など工夫して取り組んだ。
		学習と部活動の両立	学習と部活動の両立できる、効率よく内容の充実した部活動を行う。	年間計画、月毎の計画を作成し、効率よく充実した部活動を進めていく。	A	年間計画、月毎の計画に沿って取り組んだ。適宜、基礎トレーニング等に合同で取り組んだ。
人権教育の推	職員研修の充実による	人権感覚を磨く質の高い職	教職員の人権感覚を磨くための	職員研修等を通じて、取組を振	A	具体的事例を元にした研修や外

進	人権意識の高揚	員研修の実施	職員研修を充実させる。	り返り、人権感覚を高める。また、年に２回以上、校外研修会に参加する。		部講師による講話を行った。校外の研修会はほとんどが実施されていない。
	指導内容や方法の工夫改善	子どもたちの実態に応じた人権学習の実施	年間指導計画に基づいた人権学習を充実させる。	人権学習日を設定し、講話等を行うなど、身近な問題として理解を深めさせる。	B	新型コロナウイルスの影響で、人権集会を、動画等を活用し各クラスで行った。
	「命を大切にする心」を育む指導の充実	自他の命を大切にしようとする姿勢の育成	関連するテーマの授業を設定し、「命を大切にする」という視点をもって日常的な指導を行う。	道徳の授業や人権教育を計画的に進めるとともに、人権･ボランティア委員会が企画する活動に全生徒が参加する。	A	人権ボランティア委員会が企画し、花植ボランティア活動を実施した。コロナ禍での人権感覚の大切さを伝えるなど、日常的に取り組んだ。
いじめの防止等	いじめ根絶と不登校を増やさない取組の充実	日常指導等を通した、いじめ根絶のための意識高揚と不登校生徒や別室登校生徒への支援	全校生徒が安心して生活できる学校をつくる。いじめや不登校生徒を出さないための体制作りや日常的な指導の在り方の工夫を行う。	健康観察、心のアンケート、教育相談(面談)を通して、生徒の変化に気づき、未然防止を図る。「心のきずなを深める月間」には人権作文や人権標語に取り組む。「いじめゼロ」宣言文の唱和を生徒朝会で行う。	A	健康観察、心のアンケート、教育相談（面談）に取り組み、生徒にとっても職員にとっても有益な取組となった。 人権作文は取組がなく、人権標語に取り組んだ。
特別支援教育の推進	一人ひとりに応じた特別支援教育体制の確立	特別な支援を要する生徒の把握及び適切な支援	特別な支援を要する生徒を把握し、個別の支援計画等を策定する。	引き継ぎ事項等を元に特別な支援を要する生徒を把握し、支援計画等を策定して、適切な支援を行う。	A	生徒情報の共有を図り、支援計画等を作成し共有した。別室登校への対応欠席者への連絡等に、担任を中心に取り組んだ。

		特別支援教育の在り方について理解の深化を図る。	特別支援教育に関する職員研修を充実させる。（年１回以上）	中高合同の職員研修や校外研修を通して、個に応じた特別支援教育の在り方について研鑽を深める。	B	新型コロナウイルスの影響で、中高合同の研修や校外での研修は実施できていない。中学校での情報の共有に努めた。
環境教育の推進	学校版環境ＩＳＯの視点にたった環境教育の充実	生徒会による環境ＩＳＯ実践の充実	中高連携による学校版環境ＩＳＯの取組を推進する。	中高の生徒会活動等を通して、生徒の意識を高め、学校版環境ＩＳＯの取組を推進する。	A	生徒会を中心にコンタクトレンズケースの回収等、リサイクル活動に取り組むことができた。生徒の意識を高め、環境 ISO に取り組んだ。
		研修を通した教職員の環境保全意識の高揚	環境保全意識に関係する情報を共有し、指導方法の工夫改善を行う。	環境保全意識に関係する報道等資料を共有し理解を深め、日頃から環境教育に取り組む。	A	職員研修は実施できなかったが、日頃から情報の提供等、環境保全についての意識を高める取組を行った。
安全管理	健康で安全な学校生活のための意識高揚と校内体制の確立	日常指導や学活等を通した生徒の健康・安全意識の高揚	食育や性教育の充実をはじめ健康診断等の活用による生徒の健康増進のための取組を充実させる。	学活、保健委員会の活動等を通して健康で安全な生活を意識した生徒の育成を図る。	A	心の健康教育として、１年生ストレス・マネジメント、２年生ソーシャル･スキルトレーニングに取り組んだ。保健委員会としては、感染防止対策を中心に活動を行った。
		安全点検による点検と改善	教室や施設等の状況を把握し、適切な環境整備に取り組む。	安全点検を月に１回行い、安全で安心な学校づくりを進める。	A	月１回の安全点検確実に行った。破損箇所については、気づいた時点で修繕に努めることができた。
情報教育の充実	情報の正しい活用と意識の高揚	生徒の情報管理や情報モラルに関する意識の高揚	情報の正しい利活用のためのノウハウの習得及び情報モラル意	保護者会等で保護者向けの講演会を実施し、情報の提供と意識	B	新型コロナウイルスの影響で、保護者向けの講演会は実施でき

			識を育成する。	の高揚を図る。		なかった。保護者向けの情報モラルに関する資料を配付し、意識の高揚に努めた。
読書指導の充実	読書による豊かな感性の育成	よりよい読書活動を通し、豊かな心と学力の育成	良書推薦を通して読書を推進していく。学校図書館利用に関しては年間一人当たり３０冊以上を目標とする。	図書委員会で「読書祭り」などを実施し、読書に親しむことを意識させる。図書館終礼を行い、図書館利用を促進する。	A	若駒祭（文化祭）用の図書委員会の展示を一定期間開催した。 図書館終礼は計画どおり実施し、図書館利用・本の貸し出しを勧めた。
保護者・地域との連携	保護者や育友会組織との連携	各種便りや授業参観等を通した保護者との連携と協力体制の充実	学級便り（週１回程度）や学校通信、授業参観・学年保護者会等で情報の提供を行い、保護者との連携協力を充実させる。	学級便りや学校通信を発行・配信し、情報を適切に提供する。授業参観・学年保護者会等を通して、情報の提供に努め連携を深める。	A	学級通信や学校通信を発行し、情報を提供できた。休校期間中は、学校 HP や Zoom を活用した。 授業参観は実施できず、学年保護者会は、１回開催した。
		育友会役員（役員会）との円滑な連携	育友会役員（会長、副会長、学年委員長など）との連携を図り、活動の充実を図る。	各取組について、事前の情報提供に努め、連携しながら活動を進める。	B	新型コロナウイルスの影響で、育友会の取組が制限され、連携が困難であった。
	地域への貢献を意識した取組の確立	地域社会に役立つような奉仕活動等の実施	生徒を主体とした奉仕活動等を充実させる。（年１回以上）	総合的な学習の時間や学活、学校行事等に、地域社会に貢献する活動を取り込んでいく。	A	生徒会の企画立案により、地域清掃ボランティア活動を行った。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	安全な学校づくりの推進	防災意識の深化と緊急事態対応の向上	避難経路の確認と避難訓練を実施する。	新入生の避難経路確認を１学期はじめに行う。中高併せて避難訓練に取り組む。	A	１年生は、休校明けに、避難経路の確認を兼ねて、学校探検をオリエンテーリング形式で行った。生徒どうし

						の仲間作りにも効果があった。
			防災型コミュニティ・スクールとして災害時の対応等について、関係機関と連携し検討する。	災害時の対応について連携を図り、マニュアル等の改善を図る。	A	災害時を想定したマニュアル等の改善を図った。

４ 学校関係者評価

・学校の魅力を発信してください。協力できることがあればいいなと思っています。
・高校と中学の入学式が一緒に行われますが、毎年感じていることがあります。それは中学生の方が、背筋が伸びて顔を上げて、毅然として腰掛けていることです。１ヶ月前はﾗﾝﾄﾞｾﾙだった彼らがです。不思議な思いでしたが、彼らには「選ばれた」という誇りや希望がより大きかったのでしょうか。その気持ちを６年間と言わず一生持ち続けてほしいと思うところです。

・大変な年度だったと思います。リモートの活用など、慣れない中対応されたことが、今後の色々な面で応用できるようになるきっかけになり、良かったと思います。
・コロナ渦の中、色々問題がある中、タブレット、ＰＣ活用での学習は生徒の学習意欲を引き上げることができるように思いますが、苦手な生徒へのフォローも大切ではと思います。
・コロナ渦での人権感覚の大切さを伝える活動も続けてほしいと思います。
・オンライン授業、ＩＣＴ教育への対応で、先生方の授業準備の時間、時間外勤務が増加しているのではないか？　先生方の健康が心配である。先生方が元気でないと、生徒も元気に過ごせないと思う。
・今年度はコロナ渦の中、育友会と同窓会が連携し、早急に必要とされたWi-Fi環境の整備を行った。今後も連携して学校を盛り立てていきたい。
・コロナ渦で、今年度は実施できなかった行事が多かった。今後への引き継ぎが生徒も保護者も課題であるが、育友会もより一層協力していきたい。

・上級大学の訪問は大切なことですが、人生は「大学後」の人生が長いので〈どういう大人〉になりたいのか、というキャリア教育も大切だと思います。
・進学校としての教育ももちろん大切だが、心の教育が必要な生徒もいる。時代の変化に応じて、勉強だけではなく総合力をつける指導をお願いしたい。
・数値（ﾃﾞｰﾀ）ではくみ取れない部分もあると思います。より丁寧に重点的に取り組まれることを望みます。
・健康観察、心のアンケート、教育相談（面談）等の有益な取組の継続を行ってほしいと思います。

・ＡＬＴの協力、卒業生からの話を聞くなど、刺激を受ける活動を行われ、この状況の中、先生方の御指導に頭が下がります。
・外部講師による講話や動画の活用は大変良いと思います。
・玉高図書館の史料は研究者も参考にされている大変貴重なものが多い。共通テスト等でも様々な資料をもとに応用する力が試される問題が出題されていた。生徒達が身近に使えるように、大切に保管をしてほしい。
・学校と育友会（保護者）のキャッチボールということで、特に災害時や緊急時の情報発信の面（ホームページや安心安全メールによる迅速な連絡・対応）が、よりよい方向に進んだ。

５ 総合評価
新型コロナウイルス感染拡大の影響のある中、校内の感染防止対策等に取り組むことができた。休校や長期休業期間の短縮、学校行事の中止や工夫を凝らした開催に、高校と協力し取り組むことができた。 休校期間中には、オンライン授業に取り組むなど、新たな授業の創造や学校の魅力化に大変前向きであった。学校説明会等もオンライン化が進み、適切に対応し、情報の発信に努めることができた。 教育の情報化が加速していく中で、情報リテラシーや人権教育の大切さを再認識し、生徒一人一人の状況を把握しながら、丁寧に取り組むことができた。 キャリア教育では、大学進学はもとより、その先の長い人生を大切にすることのできる力を育めるよう、中高一貫教育校の利点を活かしながら、今後も取り組みの充実が求められる。 教育の情報化が、急速に進んでいく中で、職員の負担増には充分は配慮が求められる。 育有会及び同窓会と連携することで、ICT 環境の整備や生徒激励のための行事等を充実させることができた。

６ 次年度への課題・改善方策
新型コロナウイルスの感染拡大の影響の中で、例年と異なる形での行事・取組があったことから、行事や取組を見直す機会とし、具体的な業務の改善に取り組む。生徒および保護者の負担軽減と職員の負担軽減を図り、さらに業務従事時間の縮減に取り組む。 また、行事等が少なく生徒の活躍の場が限られたことから、生徒の活躍の場の確保、リーダーシップの涵養を図るために、より丁寧に行事等に取り組んでいく。 生徒を取り巻く ICT 環境がより進み、学校では教育の情報化がさらに進んでいくことから、情報教育の充実、情報リテラシーの育成、関係して人権教育等に、体系的・組織的に取り組んでいくことが求められる。教科（技術･家庭）での情報教育を軸とし、各教科での探究的活動や総合的な学習の時間での取り組み、その他様々な場面で、情報教育と人権教育に取り組んでいく。 併設型中高一貫教育校として、玉名高校図書館の活用や高校生との合同の行事等に取り組み、将来の生き方を考える機会を設けることでキャリア教育の充実を図る。海外との交流等を行うなど、広くグローバルな視野を身に付けさせる。 本校独自の取組を着実に行い、生徒の学力の伸張を図るとともに、生徒が活躍する姿を広く発信していく。